



千葉空襲を後世に

2平和団体、集いで誓う

千葉市の市民団体「千葉市空襲66周年」戦争を語り継ぐ会が7月7日、市内で「千葉市空襲66周年」戦争を語り継ぐ会」

（白井進代表）と「ちば・戦争体験を伝える会」（市川まり子代表）は7日、市

千葉空襲の体験を話す中村敏夫氏（正面中央）117日、千葉市

夷（しょうい）弾の投下で、街は焼け野原となり、市民約900人が犠牲になりました。

主催者あいさつで白井氏は「千葉市が空襲に遭ったことを知らない人もいる。あの悲惨な戦争を後世に伝えていく必要がある」とのべ、市川氏は「戦争を二度と繰り返させない。戦争を阻止するため一緒に考えたい」と強調しました。

中村敏夫氏（81）など5人が千葉空襲と東京空襲の体験談を語り、千葉空襲を題材にした紙芝居「遺言」再び繰り返さないために」が上演されました。

集いでは、語る会が千葉空襲犠牲者の名簿作成と追悼の碑の建立をめざす取り組みを紹介。千葉合唱団が「青い空は」「故郷」を参加者といっしょに合唱しました。

が参加しました。千葉空襲は、太平洋戦争末期の1945年6月10日と7月7日の2回にわたり、米軍機による爆弾と焼